



つばめ

五年 深澤夏季

毎年、春になると私達の生活の中には必ずツバメがいます。小学校に入学すると同時に私が今住んでいる家に引越しました。

引越した日、荷物を家に運んでいると二羽のつばめが家の中に入り込んで来ました。

吹き抜けにあるシーリングファンのハネの上に、二羽が仲良く並んでとまっていました。

「まるで歓迎してくれているみたいだね。」

と、母が言うとみんなが笑顔になりました。

それから、その二羽を外に出してもらうのに、苦労したそうです。次の年の春、ツバメの夫婦が玄関に巣を作りやってきました。時間はともかかりましたが、無事巣が出来ました。そして卵を産み、ヒナが元気にえさを食べて飛ぶ練習をし、およそ一ヶ月で巣立っていきました。その年は三組の家族が我が家から巣立ち、次の年も二組。毎年ツバメが来るのが当たり前と思っていたのです。

四回目の春、いつもと変わらずツバメがやって来ました。いつもと同じ様に卵を産み、ヒナが元気にエサを食べていました。学校から帰ると、ヒナ達に「ただいま。」とあいさつをして、家に入ると、突然ガタガ

タツと大きな音が外から聞こえました。外へ出ると親ツバメがぐるぐる飛び回り、怒っているかの様に大きな声で鳴いているのです。理由が分からない私はこわくなって家に入りました。父が帰宅すると、父は悲しい顔で言いました。

「カラスがヒナをくわえて飛んで行った。」

家族全員、暗くなりました。巣に5羽のヒナがいたのに、全部いなくなっていました。親ツバメが二日間家の周りを哀しい声で鳴き続け、いなくなりました。その一週間後、新しいツバメが巣の中に入って卵を産み、又かわいいヒナが生まれました。不安でしたが私達家族も明るくなりました。今度こそは、巣立ってほしいと願いました。が、カラスは又やってきました。一羽、また一羽とヒナがいなくなり、その年、結局一羽も巣立つことなくカラスに食べられてしまいました。

今年の春、又ツバメが巣に入りました。昨年のカラスを考えるとむねがいたかったです。かわいヒナが生まれて、しばらくすると父の悲鳴が聞こえてきました。へびが現れたのです。しかしへびの力ではヒナには届かず、父もへびが来るたび戦ってくれました。無事にヒナは巣立っていきました。

父と母は言いました。

「ツバメは家族の様にかわいくて大事だけど、カラスにもへびにも生きていくためには必要な事だったんだ。」

私達人間も、動物や魚を食べる様に、ツバメは虫を食べて、虫は同じ虫や目に見えない生物を食べる。食物連鎖について少し早いけど両親が教えてくれました。仕方がないことと両親は言うけれども、やっぱり私にとってツバメは特別で、元気に巣立って、来年も、また家の巣でヒナを生んでもらいたいです。